

A Y - 2 , B Y - 2

臨 床 心 理 学

ケースの情報を読み，次の1から3の小問に答えよ（問いの順に解答すること。）

ケース

本人は，中学1年生の男子である。しばしば家の金を持ち出すということで，母に連れられて思春期外来の心理相談室に来た。

本人は，初めは少し緊張した面持ちでいたが，しばらくすると姿勢が崩れてきて多弁になり，面接者が質問を終える前に出し抜けに答え始めたり，面接室のさまざまなものに興味を示し歩き回ったりするようになった。そして，面接室内を歩きながら「親がお兄ちゃんや妹ばかりをかわいがる。お兄ちゃんや妹は何でも買ってもらえるのに，俺はお兄ちゃんのお古ばかりで，欲しいものを買ってもらえないからお金を盗る。」と主張した。母は，「そんなことはない。兄や妹が買うときには，一緒にこの子の分も買っている。」，「この子は，何かを欲しいと思うと我慢ができなくなる。」と非常に疲れたような表情で話した。さらに，母が「学校でも，授業中に突然席を立ったり，唐突に無関係な話を始めたりするので，授業妨害になっていると言われている。」と述べると，本人は「授業はつまらないから聴いていない。でも，休み時間に友達に勉強を教えてもらえばすぐに分かるし，分からなくても困ることはない。友達がたくさんいる。」と反論した。

ただし，本人のいないところで母が語ったところによれば，本人が友達の家遊びに行ったり泊まりに行ったりすると，友達の保護者から

「(本人が)夜中まで騒いでうるさい。」「(本人が)友達に暴力を振るった。」と苦情を言われたことが度々あったとのことであった。

また、学校の担任教師からは、「理科の実験や体育など興味が沸いたことなら何でもやりたがって手を出すのが、うまくいかなくなったり、興味が薄れたりすると投げ出すことも多く、また、順番を待つこともなかなかできないので対応に困っている。」と言われているとのことであった。

母は、本人への対応に疲れて本人を指導する気力がなくなってきたと述べた。また、母によると、本人の父は、門限を守らなかったり、宿題もろくにしなかったりする本人に体罰を加えることもあるという。

- 1 (1) 本人の問題を考える上で、最も関連性が高いと考えられる精神医学的診断名を1つ挙げ、その理由を簡潔に説明せよ。
 - (2) (1)で挙げたものと似た行動を持つ状態像を示す診断名を1つ挙げ、(1)と対比させて違いを説明せよ。
- 2 本人の問題を理解するためには、だれから、どのような方法で、どのような情報を収集する必要があるか、1と関連づけながら、具体的に論ぜよ。
- 3 このケースへどのように介入するか、2と関連づけながら、具体的に論ぜよ。

(100点)

A Y - 2 , B Y - 2

発 達 心 理 学

自己意識の発達について，次の1及び2の小問に答えよ（問いの順に解答すること。）。

- 1 自己意識の発達について，認知の発達過程と関連づけながら論ぜよ。
- 2 自己に対してポジティブ，あるいは，ネガティブな意識をもつようになることについて，認知的要因から論ぜよ。また，社会・対人的要因，情動・動機づけに関わる要因からも論ぜよ。

(1 0 0 点)

A Y - 2 , B Y - 2

社 会 心 理 学

態度の3成分について、次の1から3の小問に答えよ(問いの順に解答すること。)

- 1 態度の3成分について簡潔に説明せよ。
- 2 態度の3成分間の連関を説明した上で、既存の態度に対する説得効果について論ぜよ。
- 3 万引きを繰り返す者に、効果的な介入・矯正を図る上で考慮すべき点について、2と関連づけながら論ぜよ。

(1 0 0 点)

A Y - 2 , B Y - 2

家 族 社 会 学

日本における離婚について、以下の1から3の小問に答えよ(問いの順に解答すること。)

なお、3つの小問を論じるにあたっては、全体を通して以下の語句のうち3語以上を使用し(順不同)、使用した語句には下線を付すこと。

協議離婚 破綻主義 親権者 再婚 養育費
面会交流(面接交渉) 心理的ウェルビーイング(ディストレス)
母子家族(母子世帯)

- 1 明治期から現在に至るまでの離婚の動向について、離婚率の推移を説明した上で、特徴として指摘できる点とその背景要因を論ぜよ。
- 2 近年、未成年の子どもを持つ夫婦が離婚した場合、どのような課題や困難が生じやすいかについて論ぜよ。
- 3 2で述べた課題や困難に対応して、現在どのような社会保障制度や社会福祉サービスが整備されているか、また、今後どのような対策が必要とされるかについて論ぜよ。

(100点)

A Y - 2 , B Y - 2

社 会 病 理 学

犯罪や非行についてライフコースや発達の視点から考察することに関し、以下の1及び2の小問に答えよ。

なお、小問1及び2を通して、以下の語句を必ず1回は使用し(順不同)、その語句には下線を付すこと。

コホート リスク・ファクター 累犯

- 1 犯罪や非行について、ライフコースや発達の視点から考察した場合、どのような特徴を指摘したり、どのような知見を得ることができるかを論ぜよ。
- 2 1の特徴・知見を踏まえて、犯罪や非行についてどのような対策が考えられるかを論ぜよ。

(1 0 0 点)

A Y - 2 , B Y - 2

社 会 福 祉 援 助 技 術

ソーシャルワークにおける個別支援計画(個別的な支援の計画)には、二つの要素があると言われており、一つ目は、ケース目標を設定すること、二つ目は個別支援計画を作成することである。

この個別支援計画に関して、次の1及び2の小問に答えよ(問いの順に解答すること。)

1 ケース目標の設定について

- (1) ケース目標は、どのような過程から導き出されるか説明せよ。
- (2) ケース目標には、どのような目標があるか説明せよ。

2 個別支援計画の作成について

- (1) 個別支援計画を作成するにあたって、選択されるソーシャルワーク技法(ケース目標を達成するためのアプローチの方法)には、どのようなものがあるか説明せよ。
- (2) 個別支援計画を立てる場合の留意点として、どのようなものがあるか説明せよ。
- (3) 具体的な事例を挙げ、個別支援計画を作成する過程について、(2)の留意点と関連づけて説明せよ。

(1 0 0 点)

A Y - 2 , B Y - 2

児 童 福 祉 論

平成23年に、児童虐待防止の観点も踏まえて、民法、児童福祉法等の改正がなされたことについて、次の視点から、改正された背景及び改正内容について論ぜよ。

- 1 親権の制限による児童の保護
- 2 親権者不在の児童の保護

(1 0 0 点)

A Y - 2 , B Y - 2

老 人 福 祉 論

高齢者に対する地域包括ケアに関する次の1から3の小問に答えよ。

- 1 地域包括ケアの内容について説明せよ。
- 2 地域包括ケアが必要とされる背景要因について論ぜよ。
- 3 地域包括ケアを推進する地域包括支援センターが担う4つの支援業務を挙げ、その目的と業務内容について説明せよ。

(1 0 0 点)

A Y - 2 , B Y - 2

教 育 方 法 学

集団（グループ）を活用した学習方法について，一斉授業による学習方法と比較しながら論ぜよ。

その上で，ジョンソン兄弟（Johnson, D. W., Johnson, R. T.）らが中心となって提唱した協同学習の基本要素を説明し，従来の集団（グループ）学習と比較した場合の協同学習の利点についても論ぜよ。

（ 1 0 0 点 ）

A Y - 2 , B Y - 2

教 育 心 理 学

平成24年8月28日、中央教育審議会より答申された「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」では、日本の学生の学期中の学修時間が一日あたり4.6時間と短く、学生の十分な質を伴った主体的な学修時間の実質的増加・確保が必要であることが強調され、大学教育の質的転換が求められている。これに関して、次の1から3の小問に答えよ。

- 1 大学教育の質的転換に向けて、「主体的な学び」を教育心理学の立場からどのように捉えればよいか。教育心理学領域の理論・知見を取り上げて具体的に説明せよ。
- 2 1で述べた内容を大学教育において実現していくためには、どのような教育方法及び評価方法が考えられるかをそれぞれ論ぜよ。
- 3 2で述べた教育方法及び評価方法が適切に行われているかをどのように確認していくべきかについて論ぜよ。

(100点)

A Y - 2 , B Y - 2

教 育 社 会 学

いじめに関する次の1及び2の小問に答えよ(問いの順に解答すること。)

- 1 いじめの発生と学級集団との関連を捉えた理論を説明した上で、近年の子どもの対人関係の変質について論ぜよ。
- 2 いじめ問題に関する近年の言説を踏まえて、いじめ問題について構築主義的な観点から論じた上で、1で取り上げた理論との違いを論ぜよ。

(1 0 0 点)

A Y - 2 , B Y - 2

民 法

民法は、2題出題されています。

民法を選択する場合は、第1問又は第2問のどちらか1題のみを選択して解答してください。

その際、答案用紙表面上部の受験科目欄には、「民法」と記入するほか、選択した問題にあわせて「第1問」か「第2問」を で囲んでください。

第 1 問

Aは、Bに対する債務を担保するために、自己所有の別荘である甲土地及び甲土地上の乙建物をBに譲渡し、所有権移転登記を経由した。A B間では、Aが弁済期まで甲土地及び乙建物を占有・使用することができること、弁済期までにAがBに債務を全額返済した場合には、Bは甲土地及び乙建物の上記所有権移転登記の抹消に協力すること、弁済期にAがBに債務を返済できない場合には、Bは直ちに甲土地及び乙建物を売却してその売買代金から弁済を受けることができる旨が約定された。

これらの事実を前提として、次の1から3の各小問に答えよ（各小問は独立の問いとして答えよ。解答は順不同でよい。）

- 1 AのBに対する債務の弁済期前に、Cによって甲土地及び乙建物が不法に占拠された。A及びBは、Cに対してどのような請求をすることができるか検討せよ。

- 2 AのBに対する債務の弁済期前に、Bが、約定に反して甲土地及び乙建物を自己の所有物としてDに売却し、所有権移転登記も経由した。A B間及びA D間の法律関係について検討せよ。
- 3 Aは、弁済期前に、Bに対する債務を全額返済した。ところが、その1年後、Bは、いまだ登記名義人になっていたのをよいことに、甲土地及び乙建物をEに売却し、所有権移転登記も経由した。Aは、Eに対して甲土地及び乙建物の所有権を主張することができるか検討せよ。

(100点)

第2問

Xは、6月1日、Yとの間で、自己の所有する甲土地及び同土地にある乙建物を一括して4200万円で売却する旨の売買契約(以下「本件売買契約」という。)を締結した。その際、Yが購入資金を得るために時間が必要となることから、代金の支払並びに所有権移転登記に必要な書類(以下「登記書類」という。)及び乙建物の鍵の交付は約2か月後の8月3日にY宅において行うことが約束された。

8月2日の夜、XがYに対し、電話で、「明日、そちらを訪れるが、代金の準備はどうか。」と尋ねたところ、Yは「実は1500万円しか準備ができていない。」と返答した。X Y間で電話で相談したところ、当初の予定を変更して、今回は代金のうち1500万円の支払と乙建物の所有権移転登記手続及び乙建物の引渡しのみを行うこととし、残部の履行は後日に延期することになった。そこで、Xは、8月3日に乙建物の登記書類及び乙建物の鍵のみを持ってYのもとを訪れ、1500万円の支払

を受けるのと引換に、持参した乙建物の登記書類及び乙建物の鍵をYに交付した。その際、Xは、「残代金2700万円を9月5日には必ず支払ってほしい。」と告げ、さらに、「もし9月5日になっても残金の支払がなければ本件売買契約を解除するつもりである。」と伝えた。翌8月4日、乙建物についてXからYへの所有権移転登記がなされた。

9月5日、Xは甲土地の登記書類を持ってYのもとを訪れたが、Yは、代金を支払うことができなかった。そこで、Xは、その場で、Yに対して、本件売買契約の解除を言い渡した。

後日、Xは、Yに対して、乙建物の引渡しと同建物についての所有権移転登記の抹消登記手続を行うように求めた。これに対して、Yは、「Xの催告時の履行提供に不備があったこと等から、解除は無効である。」、「残代金2700万円を準備することができた。」と述べ、Xに対して2700万円を提示した上で、甲土地についても所有権移転登記手続を行うように求めた。

この場合において、以下の各小問について検討せよ。なお、各小問は独立したものとする。

- 1 上記事案について、XのYに対する乙建物の引渡し及び同建物の所有権移転登記抹消登記請求が認められるか否かについて検討せよ。
- 2 Xの解除が有効に行われたとして、甲土地及び乙建物の返還並びに同建物についての所有権移転登記抹消登記手続が完了するより前に乙建物が地震により全壊したとする。この場合のX Y間の法律関係について検討せよ。

(100点)

A Y - 2 , B Y - 2

刑 法

刑法は、2題出題されています。

刑法を選択する場合は、第1問又は第2問のどちらか1題のみを選択して解答してください。

その際、答案用紙表面上部の受験科目欄には、「刑法」と記入するほか、選択した問題にあわせて「第1問」か「第2問」を で囲んでください。

第 1 問

甲は、自己の経営する個人商店の経営が傾いた知人乙から「何かよい儲け話はないか。」と尋ねられ、「お前の名義で銀行口座を作って、通帳、届出印、カードを売ってくれ、そうしたら100万円やる。」と告げた。その際、甲は、不特定多数人を欺罔して、乙名義の口座に現金を振り込ませ、一定額に達したら、引き出して逃走することを計画していたが、乙にはそれを秘していた。

乙は、銀行で「口座の売買は犯罪です！」などという警告文を見ていたため躊躇したが、100万円あれば、当座の夜逃げ資金にはなるし、いずれにしても逃げざるを得ないのだから100万円もらえる方がましだと考え、A銀行B支店に赴き、本人確認のため、自己の運転免許証を提示して、乙名義の普通預金口座を開設し、通帳とキャッシュカードの交付を受けた。翌日、乙は、甲から現金100万円を受け取り、通帳、キャッシュカード、銀行届出印を交付した。なお、その際乙は、甲がこ

の口座を隠し口座などの何らかの違法行為に使うかもしれないとは思っていたが、詐欺に用いられるとは思っていなかった。

数日後、甲は、不特定多数人に対し、その親族であるかのように偽って、乙名義の口座に金を振り込ませることを企てた。甲は、電話に出たCが、たまたま甲を自己の息子と誤信したため、携帯電話の番号を変えた旨を告げ、その数日後、その電話番号から「交通事故を起こしちゃった。とりあえず、被害者の口座に明日までに50万円振り込んでもらえないと、示談してもらえない。俺、警察に捕まっちゃう。」と告げた。人を信じやすいCは、コンビニエンスストアDのE店に赴き、振り込め詐欺の警告を見たにもかかわらず、ATMを利用して、自己の預金から50万円を引き出し、A銀行B支店の乙名義口座にその50万円を振り込み、同口座の残高は50万円となった。

甲及び乙の罪責を論ぜよ(特別法違反は除く。)

(100点)

第2問

甲は、交際相手である乙と、乙の実子であるA(4歳)とマンションの一室で同居していた。甲は、非常に短気な性格で、日ごろから乙やAに暴力をふるうなどしていたため、乙は、甲に従わなければ自分やAが危害を加えられるものと恐れている状態であった。ある日の午後9時ころ、甲は、Aの食事態度に腹を立て、しつけと称して、Aを殴打し始めた。乙は、やめさせなければAが大怪我をすと思ったが、自らが甲に殴られることを恐れたため、隣室に移動し、見て見ぬ振りをした。1時間にわたって甲の殴打を受け続けたAは、同日午後10時ころ、床に倒

れ、意識を失った。その後、翌日午前4時ころまでの間、Aが意識を取り戻すことはなく、甲が何度か体をさすったり声をかけたりしても反応せず、数度にわたって失禁したり、いびきをかいたりしていた。甲は、そのようなAの様子から、同人が危険な状態にあり、あるいはこのまま死んでしまうのではないかと思ったが、病院へ連れていけば自己が責任を問われるのではないかと恐れ、乙に対し、「病院へ連れていったりすれば俺たちは捕まってしまう。仕方ないから放っておこう。」と述べたところ、乙は、甲に反対すれば殴打されるかもしれないこと、同時に、交際相手である甲に気に入られるためにはAの存在が疎ましく、Aを翌朝病院に連れて行ってそのまま入院させればよいと思っていたことから「そうですね。そうしよう。」と答えた。甲と乙は、その後すぐに就寝し、同日午前9時ころに目を覚ましたが、その時には、Aはすでに甲の暴行を原因とする脳内出血により死亡していた。甲及び乙の罪責を論ぜよ。

(100点)